

弘大「GOGOファンド」 フリーズドライで挑戦



地域振興を目的に弘前大学（遠藤正彦学長）が二〇〇五年度から始めたマッチング研究支援事業「弘大GOGOファンド」の二件目が二十一日、決まった。植物栄養学を専門とする農学生命科学部の齊藤寛准教授（六三）と、田舎館村のケイ・エム・ナチュラル（平俊隆代表取締役）による研究。フリーズドライ法を使い、より自然に近い状態で楽しめるハーブティーの開発に臨む。

田舎館の企業と研究

GOGOファンドは本県及びその応用」。研究期間を今年七月一日から来年六月三十日までとし、抱える研究課題解決に向け、県内事業所との連携を目的に、県内事業所との連携を促進する。今年度は、田舎館村のケイ・エム・ナチュラル（平俊隆代表取締役）と、弘大の農学生命科学部の齊藤寛准教授（六三）とが共同研究を行う。研究費を支援する事業。

今回の研究課題は「香氣成分の損失を抑制するフリーズドライ法の開発」。研究期間を今年七月一日から来年六月三十日までとし、抱える研究課題解決に向け、県内事業所との連携を促進する。今年度は、田舎館村のケイ・エム・ナチュラル（平俊隆代表取締役）と、弘大の農学生命科学部の齊藤寛准教授（六三）とが共同研究を行う。研究費を支援する事業。

ルは、フリーズドライ法を使った食品開発を行っており、齊藤准教授とは〇一年度から共同研究している。同社の須藤有希研究開発担当は「自然のもので体に良いものだけを使い、できるだけ自然に近いものを開発する方針。その中で、販売されているハーブティーは天然香料を使うなど自然の味がなかった。フリーズドライで作ると、より自然の味に近くなる。五年ほど前から構想としてあったが、地元で協力を得られ商品が作れるのはありがたい」とする。

齊藤准教授は「フリーズドライ法は香りが飛びやすい弱点がある。できるだけ香りが飛ばないよう、香りや色、成分を検証し、商品化に向け研究を進めたい。ハーブティーだけでなく、あらゆる商品に応用できるはず」と期待している。